

## 【伊藤総領事メッセージ 2020年1月】



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

令和として最初のお正月を迎え、いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の年が始まりました。東京2020大会の3つの基本コンセプトは、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」です。いずれも、スポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピック（オリ・パラ）の参加者のみならず、21世紀に生きる世界市民である私たち一人一人が大切に心に刻み、生きていく上で意識すべき重要なコンセプトであるといえましょう。

東京2020大会が近づくとつれ、日本のおもてなしや最先端技術、そして東日本大震災から10年目を迎える年に開催される「復興オリンピック」にかけた多くの思いなどの情報が日本から世界中に伝えられることは容易に想像できます。まずは聖火リレーです。ギリシャから到着後、「復興の火」として宮城、岩手、福島の被災3県で展示された聖火は、3月26日、福島のナショナルトレーニングセンター・Jヴィレッジから、「なでしこジャパン」の2011 FIFA女子ワールドカップ優勝メンバーによって全国の47都道府県を回る旅を始めます。震災後は原発事故の対応拠点となり休業を余儀なくされていたJヴィレッジが全面再開にこぎ着け、その場所から、震災の年に世界一となって日本中に歓喜を運んでくれた「なでしこジャパン」のメンバーによって聖火リレーが始まるというだけで、十分に感動を発信してくれると思います。

また、日本国内で回収された使用済み携帯電話やパソコン等の「都市鉱山」から金属を集めて作られる約5000個に及ぶオリ・パラの入賞メダル、選手村内を自動運転で走るシャトルバス、福島産の水素で走る燃料電池バス、警備や清掃・受付をしてくれるロボット、AIによる自動翻訳や顔認証制度等、持続可能な成長に向けた日本の様々な取組や、わくわくするような最先端技術の活用も世界を驚

かすことでしょう。

日本では、訪日する選手達を自治体が受け入れて住民と交流する「ホストタウン」の制度が活用されており、カナダも種目により様々な日本の自治体がホストタウンとなっています。たとえば、トロントの姉妹都市である相模原市は、カナダのボートチームが事前合宿を行っており、本番に向けてさらなる交流の深化を目指しています。また、今回の東京2020大会では「復興ありがとうホストタウン」の制度が発足し、被災3県の自治体がホストタウンとなり、これまで支援をしてくれた国・地域に復興の姿を見せつつ、住民との交流を行うことになりました。カナダとの関係では、宮城県名取市がカナダの「復興ありがとうホストタウン」として承認され、カナダチーム関係者との交流が期待されています。

当館としても、昨年から継続して努めている「東京五輪音頭2020」の普及活動を始め、当地におけるオリ・パラ機運を高めるべく知恵を出していきたいと考えています。



経済の分野では、2018年12月30日に発効したCPTPPが2年目を迎え、貿易のみならず投資やデジタル経済等の分野を含む幅広い経済活動において



日本とカナダの関係強化が期待されています。昨年のトロントにおけるハイテク産業の国際会議「Collision」の開催をはじめ、「北のシリコンバレー」に対する関心は日本でも高まっているようです。私としては、当地における日系企業の方々の活動を支援できるように、昨年の連邦総選挙で顔ぶれが変わったオンタリオ州選出の連邦政府・各種委員会

等のメンバー、また昨年6月の内閣改造で新しいポストに就いたオンタリオ州政府関係者等に対し、ビジネス環境整備を含む日本との経済関係強化に向けた様々な政策につき、引き続き働きかけていく所存です。

また、カナダの人々が日本に行くとき必ず感嘆する公共交通網に関して、オンタリオ州において何らかの協力ができないのか、特に公共交通指向型開発や地下鉄網の開発において、日本の経験を共有し、カナダで協力することができないかと模索を続けています。さらに和食・日本産酒類の輸出促進についても、当地の関係者と協力しながら引き続き尽力していきたいと思っております。



日本とカナダ、日本とオンタリオ州との良好な関係を進めて行く上で、様々な分野で活躍される在留邦人の皆様の存在は大変心強いものです。総領事館としても皆様が当地で安心して生活できることを支援すべく、様々な情報や各種サービスの提供、日系企業支援、日本についての発信等を行っていく所存ですので、御意見・御提案等があれば御遠慮なくお知らせください。

皆様が本年もますます御活躍され、実り多き一年を過ごされますことを心より祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。